

令和2年2月 (2020年) No. 650

宮中歌会始の儀 来年度の「お題」にちなんで

今年の課題コンテストの題「実」と決定

毎年好評のOMC課題コンテストの「題」は、宮中歌会始めの儀で来年のお題が発表されるのにちなんで、同じ題としております。「題」の解釈は自由で、訓読みなら「み」、音読みなら「じつ」でしょうか。

「実」というのは、映像作品として難しいかもしれません。「果実」「赤い実」「実る」「実るほど頭の下がる…」「実験」「実現」「実体験」「〇〇実ちゃん」「〇〇の実態」「実際に行ってみて」「実の入った神社仏閣、庭園等」「実の入った市町村名(例)京都市上京区実相院町」等々。

難しいですねえ。映像作品のタイトル名としてはどれもぴったり感のあるものが浮かびません。実に困ったなあ。何かの実話でも描くか。

まあ、難しいからコンテストのテーマとしては面白いのかもしれませんが。ここはひとつ、頭をひねって考えてみて下さい。

■映像コンテストの開催日は5月第3木曜21日13時(第2例会日)です。



丹波篠山コンテストの結果発表 (令和2年2月2日開催)

高瀬辰雄さん「奇跡の倒木桜」は丹波篠山市長賞

中村幸子さん「嵐山のベテラン俵夫」はNHK放送局賞

以上の結果でした。グランプリは逃しましたが、5作品の受賞のうち2作品がOMC会員だったことは大変喜ばしい事です。おめでとうございます。尚、OMCからは、合原、岡本、紙本、江村、中川氏のほか前田茂夫氏も応援に参加しました。会場は300人ほどの来場者で盛会でした。



2月例会のお知らせ

■第2例会はありません。

■通常例会は第4土曜日22日18時より。難波市民学習センターにて。寒い季節ですが会場は暖房が効いて快適です。2次会共々楽しみましょう。

丹波篠山映像祭 雑感

合原一夫

2月2日の日曜日、丹波篠山映像祭に行ってきた。昨年までは“ビデオ大賞”と言っていたのを、今年から“映像祭“それも”えいぞー“と読ませるイメージチェンジを図られた。一つは全国コンテストの発表の場だけではなくて、地元の中小企業や商店のPRビデオを流して、”えいぞー“と呼ぶわけで、地元の人々の動員にかなり寄与したと思う。会場は昨年までと違って四季の森生涯学習センターのホールに変わりましたが、昨年までの凡そ2倍以上の300名ほどは動員されており、この点では、市としては大成功だっただろうと思う。

さてビデオコンテストの部であるが、全国から33本の作品の応募があり、この中から5本の入賞作が選ばれて、2月2日の映像祭の日にだれがグランプリに輝くのかの本審査が行われ、結果が発表されるわけだ。例年だと7本の入賞作があったが今年から5本に減らされているスポンサーが降りたのだろうと思う。上映順は①高瀬辰雄「奇跡の倒木桜」、②谷口正治「オオムラサキ・生きる知恵」、③坂下千代美「人生の坂道を歩んで」、④中村幸子「嵐山のベテラン俵夫」、新井絵梨花「しきもりさん日記」(東京の若い女性)。

一作品上映の度に作品のひとつと、審査員の寸評が述べられる。

この段階では中村、高瀬両氏の作品は他に比べて有利と見たが、結果的には地元で毎回のように応募されている坂下千代美さん「人生の坂道を歩んで」がグランプリに選ばれた。百歳を超えるおばあちゃんという素材に恵まれたことと、地元丹波篠山市の住民ということでトップに選ばれたと思うが、OMCメンバーで帰りの二次会席(毎年JR篠山駅近くのお好み焼き屋で参加者による懇親会を開いている)では、今年のグランプリは素材はいいがインタビューが大半で編集の仕方もいまいちで、むしろ中村作品の方がよかった等の声と共に、まずは乾杯!

OMC 会員の丹波篠山コン受賞歴

5年連続グランプリ受賞の実績も

- H13 県芸術文化協会賞 (故)有村博
- H14 丹波新聞社賞 安居利次
佳作 (故)安居良枝
- H15NHK 神戸局長賞 (故)有村博
- H18 篠山市議会議長賞 安居利次
- H19 神戸新聞社賞 安居利次
- H22 篠山市議会議長賞 前田茂夫
- H23 グランプリ (ビデオ大賞)
「炎に挑む」 前田茂夫
- H24 グランプリ 黒田敏彦
「家族が受け継ぐ無形文化財」

- H25 グランプリ 合原一夫
「最後の田んぼ」
- H26 グランプリ 前田茂夫
「余部に生きる」
- H27 グランプリ 高瀬辰雄
「思い出に生きるケヤキ」
篠山市長賞 前田茂夫
サンテレビ賞 吉岡貞夫
- H29 篠山市長賞 河口禮志
篠山教育長賞 中村幸子
- R1 篠山市長賞 高瀬辰雄
NHK 神戸放送局賞 中村幸子
(資料提供 前田茂夫氏)



第39回日本を縦断する映像発表会

3月8日(日曜日)13時より

大阪市立中央図書館5階第会議室にて多くの方のご来場をお待ちしております。

総会・新年会

総会・新年会の開催

・1月13日(祝)新年会、・1月16日(木)総会、勉強会開催

総会事項

- ① 令和元年度活動・会計報告
- ② 年度作品表彰

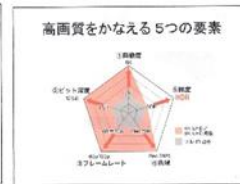
4K 勉強会

「新しい4Kビデオについて」の勉強会開催



内容

4Kビデオの基本として、現在の2Kとの違い、4Kで高画質を実現する5つの要素についての説明。次回は3月、実践編を予定



■新入会員のご紹介

上総秀隆 (元相談役の上総修一郎さんのご子息)

住所：〒590-0814 堺市堺区石津町 よろしくお願ひいたします。

1月例会レポート

1月例会は、新年会と第2例会の後で行われたので新年早々という気分は抜けていたが、初めて今年出席された会員さんも居て、まずは今年もよろしく、という司会者の挨拶から始まった。

運営担当：司会 岡本、書記 高瀬、映写 坪井、メモリー記録 江村、受付 照明 森口、中川の各氏

出席者：江村、岡本、上総、紙本、合原、進藤、関、高瀬、坪井、中川、森口、森下、森田、山本の14氏
(河口氏は作品のみ)

上映作品 (今月の書記は高瀬氏)

1、お笑い神事 B D

岡本至弘 8分40秒

「作者コメント」

枚岡神社(東大阪市雲井町)では12月23日、一年間のさまざまな出来事を笑い飛ばし新年を祝う注連縄(しめかけ)神事(通称 お笑い神事)が行われた。笑いの起源は天照大神の神話です。

天照大神が天の岩戸に二度と御隠れにならないようにと、注連縄をかけられたそうです。毎年注連縄を新しく掛け替える際、笑うことで心の岩戸を開き、福を呼び込む神事として行われています。時間の都合で注連縄掛けが撮れなかったのが残念です。

(会長コメント)

以前 野田さんが撮影してきて発表された同じ行事なので、こういう変わった行事があることは知っていました。この作品の狙いは依頼されて撮影された記録の中からこの作品を作られたとか。

素材が楽しいので、今年のOMC発表会用に思い切って作り直してみたらいかがでしょう。テーマを「笑って 笑って!」と理屈抜きで笑いの世界に引きずり込んでいく、そんな作品を。笑いがパツと湧き起ったら、驚いた鴉が飛び立つ猫がびっくりして逃げ出す、笑いのアップ、地蔵さんまでが笑っている、赤ん坊さえ笑った等々、とにかく笑いの渦でせいぜい5~6分の作品。いい素材だから大いに考えを練って作って下さい。



2、舞鶴紀行 B D

紙本 勝 13分20秒

「作者コメント」

中舞鶴線と舞鶴港線の廃線跡を歩くと機関車に出会い、赤れんがパークに独特の趣を感じ、引揚記念館ではソ連軍に拉致されるなどして犠牲になられた何万人という人々、そして引き揚げられた方々の労苦の程が偲ばれる旅でした。



(書記のコメント)

筆者も昨年、舞鶴に行ったが、紙本さんが撮影されているのは西舞鶴、東舞鶴とかなり広範囲にわたる。結構、時間もかけられての撮影と思われ、その精力的な作品作りにはいつものことながら感服します。

3、天罰 B D

森口吉正 5分

「作者コメント」

今年は雪など全く降らない。しかし3年前の1月はこんなに雪が降ったのだった。

(書記のコメント)

3年前、雪の降りしきる中、叡山電車で鞍馬に行かれた。車窓から見えるのは白い雪の世界。終点の鞍馬に着くと、雪は小降りとなるが、天狗の鼻にも雪が積もっている。鞍馬寺の参道に立ち、どこから撮影しよ



うかと思われた時、頭の上から雪の塊がどさっと落ち、撮影はストップ。こんな日に、こんな所に来るなという天罰が当たったと、ユーモラスに締めくくられている。

4. めおと節人生 B D

河口禮志 10分57秒

（書記のコメント）

地元、山口県周南市安田糸あやつり人形芝居の振付指導と語り手の太夫を務める門田耕介さんと、三味線を弾く門田早苗さん夫婦を撮影されている。さすがにカメラワークは秀逸で、耕介さんの語りや指導ぶりを迫力のある映像で表現されている。夫が芝居の筋を語り、妻が三味線を弾くのがライフワークとナレーションにあり、タイトルからしてもこれが作品のテーマと思われるが、もう少し夫婦であることや、夫婦の関わりといったシーンが欲しいように思います。



5. 御堂筋イルミネーション2019 B D

進藤信男 14分30秒

「作者コメント」

計画している4K勉強会に備え、江村さんの協力を得てトライした。「4K撮影～現用PCで取り込みから編集～レンダリング出力（2Kと4K）」ここ迄は従来と変わらない。自宅環境では4Kらしい映像を見るためにはディスプレイが鍵をにぎる事を体感した。夜間撮影だけになおさらだ。例会場の映像環境では、どんな映像になるだろうか。こうしていると、早くネイティブ4K映像が見たくなる。



6. ベルリン再訪 B D

山本正夢 7分

「作者コメント」

ベルリンは娘が住んでいる関係で幾度も訪問していて、その都度編集しているので目新しさがなく、ざっとした編集しかできませんでした。

（書記のコメント）

ベルリンに何度も行かれ目新しさが無いようにおっしゃっているが、映像は観光旅行者には見られない目線で撮影されており、さりげなくワイド、アップを組み合わせるの巧みな編集で、街の様子を興味深く見させてもらった。



7. 鉾山鉄道 B D

江村一郎 8分30秒

「作者コメント」

三重県と和歌山県の鉾山廃線跡を訪ねた。ひとつは三重県の三国山から石灰石を港まで運ぶ専用鉄道だが、ベルトコンベヤーに置き換えられている。ふたつ目は昭和53年に閉山した紀州鉾山。ここには鉾山鉄道の一部を利用した観光トロッコ列車がトンネルを抜けた先の湯ノ口温泉までを10分で結ぶ。



8. 汐見弥寿子先生の空襲体験 B D

上総秀隆 14分30秒

（書記のコメント）

1月に入会され、例会に初めて持参された作品。1945年7月、堺市で空襲に遭い、母を失った、元国民学校の先生だった汐見弥寿子さん101歳が当時の空襲の体験を語る催しに参加され、撮影されている。撮影ポジションが良く、汐見さんが語る姿を正面からしっかりと撮られている。体験話に聞き入り、見ているにはいいが、汐見さんの映像サイズがほとんど同じで、時折、当時の空襲の写真などを入れられてはいるが、もう少し写真等を増やして変化をもたすなど工夫があれば…と思います。



9. 2020大阪消防出初式 B D

坪井仁志 4分45秒

「作者コメント」

年賀ムービーに続けて毎年同じネタですみません。南港で行われる大阪消防の出初式の記録ビデオです。人が多く三脚が立てられず、スチールカメラマンに押されながら散々の撮影になりました。



(書記のコメント)

「人が多く三脚が立てられず…」と記しておられるが、そんなことは感じさせない映像で、迫力ある出初式の模様を見せてもらった。

10. 城壁に囲まれた町 BD
合原一夫 10分



「作者コメント」

ポルトガルには中世の城跡が多数あるが、中でもオビドスの城跡は特に印象に残った町であった。町全体が城壁に囲まれ、内部の町は白壁が印象的な美しい町であった。撮影 2000 年 (平成 12 年)

11. 近江神宮かるた開き BD
高瀬辰雄 8分30秒

「作者コメント」

滋賀県大津の近江神宮は天智天皇が祀られている。小倉百人一首の最初の歌が天智天皇の歌であり、「かるたの聖地」とされている。この近江神宮で1月12日に行われた「かるた開き」と「かるた取り競技会」を撮影し、まとめました。



1月第2例会レポート

第2例会は1月16日(第3木曜日)13時より、総会終了後、作品上映に移った。

運営担当：司会 合原、書記 紙本、映写 中川、メモリー記録 江村、受付 照明 森下、宮崎の各氏

出席者：江村、岡本、植村、上総、紙本、

合原、進藤、関、高瀬、中川、堀、山本、森下、宮崎の14氏

上映作品(今月の書記は紙本氏)

1. 朝日豊年太鼓踊 BD
紙本 勝 10分00秒

「作者コメント」

滋賀県の米原市朝日で行われる素朴な民衆芸能で今から1300年前に大原郷を開拓した際に始まったという。

この踊りは伊吹山麓の9ヶ村で雨乞いのお礼として奉納されてきた感謝の姿で今も引継がれているという訳です。



2. 河口湖の富士 BD
高瀬辰雄 8分10秒

「作者コメント」

12年前のDVワイド撮影した映像と、3年前に撮ったハイビジョンの映像をもとに編集しました。富士山をテーマに夕景から翌朝の情景へ、そしてラストは冬の花火と構成しました。DVワイドの画質が粗いです。

(書記のコメント)

天上山からの俯瞰撮影で湖周辺の全貌と氷る噴水、富士は姿をみせず。翌朝カメラマンが並ぶと私が見たこともない朝焼けの富士山が素晴らしい。美術館ではオルガンに合わせて壁面の多くの人形が踊る。大石公園の情緒と富士をバックの花火は抜群見応えのある作品



3. シチリア島周遊 BD
山本正夢 8分00秒

「作者コメント」

8世紀にはアラブ支配者が次々と変わるなか、シチリア人の頑固な性格がマフィアを生むきっかけになったと言われる。

(書記のコメント)

ナポリの港から渡られたのは地中海最大の島と言う。

ギリシャが支配した時代があった影響がよく似た王宮・礼拝堂・古代の神殿や劇場等が次々と続く。白い岩の上で夕日に染まる人々絶景スポットとか



4. その瞬間 BD
堀 皓二 6分50秒

[作者コメント]

あれから25年経ちました。なつかしい仲間の顔が出てきます。

(書記のコメント)

車窓に震災から復興した街が流れ思いにふける作者、瞬間瓦礫の山に続く、それは現場を見た瞬間の驚きと天災の恐ろしさだったのでしょうか。

花鳥園ではオオクロウの飛ぶ瞬間をカメラで狙う仲間達何人かは故人でこれも人生の瞬間か、鳥の飛翔は瞬間のことでした。



5. 炭山の里をたずねて BD

岡本至弘 13分00秒

[作者コメント]

1983年(昭和58年)制作のフィルムをテレシネしました当時の小型映像連盟の撮影会作品です。京焼きの里「炭山」を撮影しました。わたしが作品作りを始めたころの作品です。

(書記のコメント)

今から35年も前でも画質は見劣りしていません。炭山は陶芸の里で京焼・清水焼の窯元が現在30軒もあるそうです。女性カメラマンが懸命に取材し体験する様子をしっかりと撮影、よい作品でした。

6. 日本のだ真ん中・岐阜城 BD

江村一郎 6分50秒

[作者コメント]

去年の作家連で行った時のものです。タイトルが岐阜城だけだと何か物足りないので、当地が人口で日本の重心であるを知り、岐阜城の前に入れました。

作品の内容とは余り関係ないと思いつつも天守からの眺めは素晴らしく、日本の真ん中から天下を知る気分は味わえた。

(書記のコメント)

金華山に聳え立つ城、城だけでは素材不足になるのではと思っていたら、城下町で古い町並みが残る川原町の情景が入り流石。

いまだに発掘調査が続く居館跡や資料館、そして城郭、天守の眼下には長良川の流れと遠く広がる街並み、天下統一を目指す信長にふさわしい城だったと納得された様でした。



7. 京都 竹の寺 地蔵院 BD

中川良三 5分43秒

[作者コメント]

京都 上桂にある竹の寺 地蔵院 ここは一休さんが6歳まで過ごした寺だそうです。紅葉見物を兼ね訪ねてみました。本尊の地蔵菩薩は拝めませんでしたが、十六羅漢の庭や方丈が見学でき、住職の想いが詰まったレイアウトの室内でした。又、ホームページにはその月の想いが書かれた「おくりさん日記」があり「方丈記」の冒頭部分が記載され印象に残りました。

(書記のコメント)

竹の寺と言うくらいですから竹がまわりを囲んでいる感じです。欲張りかもしれませんが、瑞々しい竹のアップのカットがあればより美しくなったのではと思いました。竹ばかりでなく紅葉がマッチして秋が盛り上っています。私が15年前に行ったのは初夏で緑一色でした。



8. ウ"アーツラフ広場 BD

関剛 8分30秒

[作者コメント]

約20年前、チェコ・プラハの市街地の一部を撮ったもの。広場と言っていますが私の印象では大通りそのものです。北の端に民主化を求めて焼身自殺したモニュメントが建っています。HI8作品からBD化しました



(書記のコメント)

この広場はプラハの新市街の、ショッピングの中心地で、伝統的な市もあるとか。街歩きの人々で賑わっているのがよく判ります。大きな建物の国立博物館の彫像が見事、街頭で手芸をするおばあさんの手元や顔等のドアップに驚きます。東欧の民主化はここから始まったとありました。